

第1回旭市総合戦略推進委員会（評価）

議事録【要約】

開催日時：令和2年11月10日（火）13：25～15：40

開催場所：旭市役所本庁舎3階

○出席者

《委員》

鎌田 元弘 委員長	出	飯田 正信 委員	出	石毛 直夫 委員	出
石毛 みさと 委員	欠	石見 千賀子 委員	欠	伊原 敬道 委員	出
佐藤 年雄 委員	出	城之内 和義 委員	欠	板谷 敬二 委員	欠
田邊 波津枝 委員	出	平野 晃久 委員	欠	古橋 志雄 委員	出
柳 明美 委員	出	芳野 守 委員	欠	宮内 勇弥 委員	出

《事務局》

旭市企画政策課：小倉課長、林班長、醍醐、川瀬、保立

○事前配布資料

- ・資料1 重点施策の評価について
- ・資料2 地方創生推進交付金事業の効果検証について
- ・資料3 基本施策評価シート
- ・資料4 総合戦略施策別・目標別達成度総括表

○当日配布資料

- ・資料5 「重点施策マネジメントシート」、
- ・意見書様式
- ・座席表
- ・どきどき探訪

○ 会議内容（要約）

1 開会

事務局 配布資料の確認、委員の出欠席、変更等。
※初めての委員もいるので、総合戦略の概要を説明。
課長挨拶

2 説明及び評価

委員長 委員長挨拶。
事務局からの説明を。

事務局 重点施策マネジメントシートの構成について説明。
資料1に沿って地産振興プロジェクトについて説明。

委員長 質疑・意見を。

委員 目標指標については、これは会社登記数だと思うのですが、個人事業種に関しては、商工会全体ではちょっと減ってきていると感じています。法人というのは、法人登記した会社が増えてきている、あるいは、個人事業主が法人登記に切り替わった等々あると思うのですが、個人事業主については、これから、後継ぎ・後継者の問題でどんどん衰退していく所が多いのかなと思うこともあります。第2期の目標値62件、法人というよりは、旭市市内で事業を営んでいる人の目標数値といったものがあればまた違うのかなと思います。

それと、季楽里あさひの第2期の目標値8億円とありますが、どうやって8億円を達成するのか、これは容易な事ではないなと思います。第1期の理由として、出荷者が増えて増加していると思いますが、要望的なものになってしましますが、前の広場の現状の使い方ですが、もっと活性化する使い方があれば良いのかなと、勿体ないなと思うところもあります。

また要望的なことになってしましますが、今、加工部会、加工品に関しては、季楽里あさひでは、手数料を20%取られるのですが、旭市に事業所がある人に関しては、道の駅は、このコロナ

禍の中で、助けになっている部分も大いにあるのですが、売り上げを伸ばすということも大切なことですが、コロナ禍にあるということを経験して、出荷者に対しても、加工品であれば、期間を決めてでもいいですから、5%でも安くしていただけたらというのはあります。期間を決めて、地域に還元という形で、地域を盛り上げながら、先ほどの前の広場の有効活用といったことも併せて、地域みんなで協力しながらこの8億円という目標を達成ということも考えていただけたらと思います。

委員

季楽里あさひは、当初思った以上、お客さんも車も一杯で、これは旭では大成功した場所だと思っています。午前にあったものが午後にはパーッとなくなってしまうくらいに、いい野菜などが売っているので、とても楽しみにしています。

前に骨董屋さん？があるのは何故なのかなというのは、一度市に聞いてみたいと思っていました。全く旭と関係の無いものを売っているのでイメージ的にどうなのかなと思っていました。私なら、大きな窯で八万石のお米を炊いて、おにぎりにして百円で売るとか良いのにとおもいます。すごくお客さんが多いのですが、観光の人と市内の人だとどちらが多いのですかね。

委員長

質疑・意見を。

事務局

道の駅の関係についてお答えします。まず、8億円という目標の達成をどうやってという点ですが、これに関しましては、昨年に道の駅の駅長が変わりまして、大変なアイデアマンでいらっしゃいます。いろいろなイベントを仕掛けていまして、ついこの間も、5周年記念ということで、セールやくじ引きなど大変な盛況でございました。今年度、コロナの関係でだいぶ売り上げが落ち込みました。8億円なんてとてもというレベルまで行ったのですが、7月以降の巻き返しが凄いいものでして、昨年同期を9月末では上回りました。

前の広場の関係ですが、昨年、観光物産協会と連携してイベントを開催しまして大変盛況でございました。観光物産協会もこのおかげで、道の駅と連携してイベントを打っていきたいという気運が高まりまして、これからも様々なイベントを打ってい

きまして、これによって売り上げアップを図っていくというのが、現在の方針であります。

それと、地元の人と観光客の割合についてですが、季楽里あさひは非常に地元の方に支えていただいている道の駅でございます。近隣に大手のスーパーもあるのですが、道の駅に新鮮な野菜やお肉を買いに来ていただいている、ということで8～9割が近隣地域の方ではないかなと考えております。

前の広場での骨董品等につきましては、確かにイメージそのようなお話はいただいております。広場を使った場合には、売り上げの何%という形で利用料を徴収していたのですが、今年の4月から、単位面積、テント一張いくら、という形に変えました。それが、骨董品の排除を目的としたわけではないのですが、断る理由ものを示すのが困難でして、例えば場所によって利用料を変えるとか、できる事はやって行きたいと考えております。

委員長

先ほど、個人事業主の話もございましたので、こちらも合わせてご検討いただければと思います。

KPIの最後のところ、紹介成功率のところについて、委員の方からコメントいただければと思います。

委員

旭市の地域職業相談室につきましては、ハローワーク銚子との共同事業で実施しています。開設後、順調に相談者数、就職者数ともに伸びております。今回の紹介成功率は、何回紹介されて就職できたかを表しますので、職業紹介の技法の向上といったものを測る物差しにはなりますが、一人の方に熱心に紹介をしてしまうと、逆に率が下がってしまうということもあります。この紹介成功率が悪いということではなくて、プラスで紹介件数や就職率などを表していただくとより分かり易いものとなると思います。ちなみに、千葉県全体でみたときに、地域職業相談室は9つありまして、就職件数では県内で3番目に多い実績となっております。また、就職率で見ても千葉県全体が28.3%、銚子所でも38.7%のところ、旭市の相談室は69%と非常に就職率が高いといった特色がありますので、是非旭市の方々に利用していただければと思います。

委員

KPI を、「旭市の推奨品」から「農業産出額」に変えたのは良いことだと思います。

他の産業については分かりませんが、地域の農業分野については、法人化数も増えています。危惧することは、外国人労働者を入れて、頭数を増やして、低賃金で売り上げが伸びていると。結局、日本人を雇用できるような経営で、労働者一人当たりの売り上げが伸びているのであれば良いのですが、頭数だけそろえて、一人当たりの売り上げが落ちているのであれば、何にもならないと思いますので、法人の数と農業産出額の中味を見てみると、数だけでは分からないこともきっとあると思います。

事務局

KPI については、総合戦略にはこのように載せてはありますが、これも全課にヒアリングを行った上で、このような資料を作っています。今、お話いただいた内容も含めて、何がダメで何がよかったのかを確認しながら、PDCA サイクルを確立させていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、KPI を変更したのは良いことのお話がありましたが、こちらも産出額が上がれば良いのかといった話になります。また、儲かる農業といった観点から、産出額ではなく、農業所得といった考え方もあるかと思います。ですので、繰り返しになってしまいますが、外国人を雇用状況などの中味まで含めたヒアリングをしていった上で、より良い KPI があれば、変更してより適切な目標数値を掲げながら、進めていきたいと考えております。

事務局

資料 1 に沿って子宝育成プロジェクトについて説明。

委員

この合計特殊出生率の向上というのは、国全体の問題ですので、なかなか 5 年間で成果を出すのは難しいものだと思います。一点質問なのですが、旭市の待機児童の現状はどうかでしょうか。なかなか、子育て世帯の流入ということを考えると、子育て中の家庭への支援ということは欠かせないもので、紙おむつなどは大変好評だと思われますので、待機児童がいないとな

	<p>れば、他市に PR できる状況だと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>旭市においては、幼稚園・保育所等の待機児童はおりません。かえって、子どもが減ってきたことによって、市立保育所の再編といったことが課題になっております。</p>
<p>委員</p>	<p>少子化の関係なのですが、合計特殊出生率ではなくて、出生数を使った方が良いのではないかとこのことを昨年度にも申し上げたのですが、それをちょっと補足させていただきますと、合計特殊出生率の算定なんですけど、大雑把に言いますと、分母に15歳~49歳の女性の人口、分子に子どもの数といった形で算定するようになっていまして、そうすると子どもを生んでいない若い女性が、就職等で市外に流出しますと、分母が縮小してむしろ高まってしまうことになるのですね。</p> <p>ですので、この合計特殊出生率が高くなったから安心だとなりませんので、出生数を使った方が良いのではと思いますので提案した次第です。</p> <p>国が使う分には、国外に移住というケースを除けば合計特殊出生率を使えるのですが、市町村がこれを使う際には注意が必要だと思います。</p> <p>あと、やはり子どもの数を増やすには、共稼ぎ家族を増やすこと。安心して働ける保育環境が絶対必要だと思います。</p> <p>コロナで3月に学校の一斉休校の要請があったときに、子どもの面倒をどうするんだという社会問題になりましたが、これはコロナに限らず、日頃から共働きの夫婦にとって、保育環境というのは切実な問題だと思います。例えば今、放課後児童クラブの話もありましたけども、保育時間の延長、休日保育、一時預かりや病児保育といった安心して働ける環境の構築を目指していただければと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>事務局いかがですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>出生率と出生数の関係ですけれども、委員のおっしゃる通りだと思います。平成29年の454人から、平成30年に初めて400人を下回ったということで、衝撃を受けております。第2期の</p>

	<p>目標につきましては、1.6 という合計特殊出生率と並べて 488 人の出生数というやや大きな出生数を掲げまして、見ていきたいと考えております。</p>
<p>委員長</p>	<p>併記ということですね。次に、若い世代から意見を伺いたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>個人的なことですが、私は子どもが二人いるのですが、おむつ券は大変助かりました。上の子が通っていた幼稚園が 1 クラス 8 人しかいなくて、今年小学校に上がったのですが、1 クラスしかなくて、子どもが少ないなと感じています。</p>
<p>委員</p>	<p>私どもの職場は女性が多く、子育てしながら、まして子どもが二人、三人となって、産休・育休後にまた来てもらう時に、両親が同居だと、助けがあって、子どもが増えても仕事を続けることができるけれど、核家族となると保育所等の関係で、ハローワークからの紹介されたパートさんも、みんな土日は休みとなってしまうため、どうしてもそこが採用のネックになってしまいます。私のいる施設のように 3 6 5 日人がいる所ですと、土日休みというわけにはいきませんので。また、預かりも 6 時までとなると、パートにならざると得ないとか、そういったこともあるので、働く人たち、特に共働き世帯にとってみると、もう少し迎えに行くまでに余裕ができるとか、休みの日にも何かやっていただけると随分違ってくるし、安心してまた子どもが産めるようになるのではと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料 1 に沿って故郷創出プロジェクトを説明。</p>
<p>委員長</p>	<p>質疑・意見を。</p>
<p>委員</p>	<p>人口の社会増減のところで、変動の要因として外国人実習生が挙げられていますが、実習生の方は数年しかいないので、その方々の増加が故郷創出プロジェクトに当て嵌まるのかなという疑問があります。</p>

また、日本人の若年世代の就職等による転出というのがあると思いますが、こちらの近隣市町から旭市に入ってきている方もいらっしゃるということなので、これがどのくらい増えているのかを示すような目標指標があれば良いと思います。

事務局

平成 29 年度は、外国人受け入れ態勢の変更があり、大きなマイナスの要因となりました。日本人に限定するという考え方もあると思いますが、第 2 期でも日本人と外国人を合わせた数字で目標値を設定しておりまして、日本人に限定せずに旭市民を増やしていこうという取り組みを行っております。引き続き、全体と併せて、日本人と外国人とを分けた分析と確認を行いながら、施策を進めて行きたいと考えております。

委員

これには載ってはいないのですが、気になっていることとして、ふるさと納税があります。PR に幾らほど使われているのかということと、旭市民は旭市に寄付ができないので、皆に寄付されちゃうと、市に入るべきものが入らなくなってしまうという面があると思います。今、どんどん増えて来ていると思うのですが、この辺はどうなのでしょうが。

事務局

いわゆるふるさと納税、当市ではふるさと応援寄付と呼んでおりますけど、昨年度の実績で 6000 万円ほど、市に入ってきております。委員のおっしゃるように、市外に出ていってしまっているものもあります。この出て行ったものにつきましては、確か 7.5%分だったと思いますが、交付税として国から措置されることになっています。こういった事を全て含めると、昨年度の分を計算いたしますと、返礼品自体にもその送料などの経費を除きまして、交付税措置を含めると、純粹には 3000 万円くらいと記憶しております。

委員

定住促進奨励金に関連してなのですが、私は匝瑳でも委員をやっています、そこでもお話したのですが、ぜひ息子夫

	<p>婦、娘夫婦が親と同居する場合、それにかかる住宅助成、リフォームとかですね、そういうのを手厚くやっちはどうかという提案をさせていただきたいと思います。</p> <p>息子夫婦・娘夫婦が親と同居することによって、子どもの数は増えると思います。子育ての負担も軽減しますし、将来的には親の介護、あるいは空き家対策にもなりますので、その辺を検討されてはと思います。</p>
事務局	資料1に沿って安心形成プロジェクトを説明。
委員	<p>自主防災組織についてなのですが、冊子には地域住民による任意の防災組織とあるのですが、実際はどのような形態なのでしょう。</p>
事務局	<p>自主防災組織は基本的に区とかは関係の無いものです。</p> <p>ただ、近所の人5人で作るとかでも全然構わないものです。ここには高齢の方がいるからという理由で近所の人で組んで、逃げるときには確認に行ってから逃げようといった形でも良いわけです。ただ、今現在は旧旭市だけが、自治区単位で出来ているような状況です。旧3町が出来ていないので、6割くらいの数字になっています。一番、手っ取り早くまとめやすいのは区なのではないかなと思っておりますが、特段その区分けについては制限しているわけではありませんので、任意の組織となっております。</p>
委員	<p>今の防災の件についてなのですが、私は他の協議会もやっているのですが、1市3町全体の区から上がってきている人がいるわけでなのですが、そういう人たちにお願いして、実施するという事は可能なのですか。</p>
事務局	<p>可能です。今言われたように、保健推進委員さんとか、極端な話、民生委員さんとかが毎年連携してやって行きましょうという形でも構いませんし、取り掛かり易さというのは、区によって</p>

	<p>変わってきますので、どなたかがお声を挙げていただいて、この範囲だけでもやろうよ、ということでも良いのかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>目標指標の健康寿命ですが、このような設定についてはいかがですが。</p>
<p>委員</p>	<p>シニアカフェというのをやっているのですが、その中で高齢者だけを誘ってやっているのですが、皆さんの話を聞きますと、あまり健康寿命には興味を持ってくれないのですね。女性の中には興味を持ってくれる方もいるのですが、男性の方には殆どおりません。女性は健康寿命も下がってきていますので、我々も健康寿命を意識して、もうちょっと力を入れていかなきゃならないと思っています。</p> <p>世帯が別になってから支援するだけじゃなくて、息子や娘がお嫁さん、お婿さんを貰って、一緒に住むということに対しても考えて貰えると、高齢者の考え方も変わってくるのかなと思います。高齢者だけで生活していると、その範囲でしか生活していないので、中々周りのものが見えないというか、聞き入れてくれないといったことがあると思います。</p> <p>私は今年から老人クラブに入ったのですが、何でと笑われました。60前から入らせてもらったわけですが、私かどうしてこうやるのかといいますと、委員さんにうちの姑もお世話になりまして、色々と勉強させていただきまして、高齢者と接するのが楽しい、色々なことを覚えられると感じました。もっと、楽しいことについて、老人クラブのもっと良い宣伝をしていただければと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>行政からすると、どうしても捉えられやすい指標に収まってしましますが、やっぱり市民目線で行くと、健康寿命の様に、指標自体にあまり興味が無いということがあります。そういう事に興味を持っていただくことも含めた、複合的な所も研究の余地があるのかなと思いました。</p> <p>老人クラブも名称から工夫を試みるのも良いかもしれませ</p>

	ん。
委員	健康寿命について、県平均と旭の数値ですごく差があるのですびっくりしたのですが、何か理由があるのですか。健康寿命の定義も漠然としている感じがします。
委員	旭市は糖尿病と脳の疾患が多いんです。
事務局	健康寿命というのは、おそらく生活習慣病といったものに罹患せず日常生活に制限を受けない年齢の平均と思われます。昔にも話を聞いたことがあるのですが、この地域の人々は塩分を取りすぎということが要因の一つかと思います。一度、銚子市では塩分を減らすキャンペーンをやったことがありました。
委員長	厚生労働省によると、平均寿命から寝たきりや認知症などの介護状態の期間を抜いた期間ということです。国の平均だと男性が 72.14 歳、女性 74.79 歳です。大体県の話と一緒にですね。もし、定義が同じならば、これは有意な差だと思います。 数字が独り歩きしてしまいますので、こちら辺は大事なご指摘だと思いますので、確認をお願いしたいと思います。
事務局	資料 1 に沿って生涯活躍のまち構想を説明した後、資料 2 により地方創生推進交付金の実績について説明
委員長	市の内部から見るとそうではないのかもしれませんが、こういうような仕組みをここまで組み上げるというのは、全国レベルで見ても大層なことです。KPI でおやっと思ふところもありますが、これやはり事業途中であるということ、台風やコロナウイルスの関係でイベントが開けないといったことが影響しているのだと思います。
委員	今後の事業予定はどのようなものでしょうか。
事務局	現在は、市の関係課も含めまして、代表事業者であるイオンタ

ウンさんが契約しておりますコンサル事業者と開発手続き、農地転用手続きの申請の準備をしているところです。申請から許可までは数か月かかる見込みですので、予定では令和4年春のオープンを目指しております。ただ、そのためにはインフラ工事、エリア内の上下水道等を含めた造成、建物の建築工事などを含めるとそのようなスケジュールになってしまいます。

委員長

なかなか意欲的に取り組んでおられるようですが、なんせこのような状況ですので、なかなか声を届けにくい状況だと思います。先ほど話のあったオンラインでの説明会の見通しはどのようなのでしょうか。

事務局

今、ちょうどご覧になっていただいている「どきどき探訪」についてお話をさせていただきます。10月15日の年金支給日に合わせて作ったものでして、都内の郵便局約100カ所に15,000部配りまして、ただ置くだけではなくて、郵便局の窓口の方が手渡しでお配りしていただいているものです。巻末にアンケートが付いていますので、これで旭市に興味のある方の情報を得ようかなという目的もあります。この冊子なんですけど、どこにでもあるような、海があって山があって食べ物がおいしくて、といった内容ではなく、実際に旭市に移住してきた方の生の声を載せて、最後にまちづくりを紹介するという、ちょっと視点を変えて作ってみました。

一昨日に東京に行きまして、セミナーをやってきましたが、会場に来る方はゼロでしたが、リモートで参加された方がいらっしゃいました。こういった方には意向を確認した上で、情報誌の送付やセミナーの案内をしていきたいと考えております。今後は12月と2月に行う予定です。あと、東京メトロ銀座駅のイベントブースを1週間ほど借りまして、中身は精査中ですがイベントをやる予定です。

委員

私は今年の4月に東京から転勤して参りましたが、本当に旭市は熱心に事業を展開しているなど感心いたしました。特に今年は特に新型コロナウイルスの関係でテレワークが都内でも多

く実施されまして、半分以上は自宅で仕事をしているという環境でして、旭を知ってもらって来てもらうということが続けていただければと思います。

委員長

色々と外に対して発信してもらおうというのは非常に大事なことなのですが、市民の方にもこういう動きを知ってもらって、住民によるセールスというか、おもてなしを市を挙げて行う動きに繋がってくると良いのかなと思います。

でかいスーパーと施設ができるんだよね、ということだけではなく、我々全体でやっていこうという盛り上げを、ここにいらっしゃる委員の皆さんを含めて出来ると、他の指標も玉突きになって、子育てにも仕事にも移住にも繋がっていくと良いなと思います。

整理しますと、KPIには上がり下がりありますが、未達成の部分も含めて、事業進行中ということ、新型コロナウイルスの影響もありますので、引き続き経過を観察して、頑張ってくださいというまとめでよろしいでしょうか。

(異議なし)

事務局

資料3・4に基づいて、基本施策について説明

委員長

皆様よろしいか。

それでは、これにて会議を終了する。

【閉会】
